

2014年10月17日掲載

「大人の本気」

今春から、北海道大で1年かけて科学技術コミュニケーションを学ぶプログラムに参加している。夏はサイエンスカフェなどのイベント運営を学ぶ集中演習に参加した。苦手な理系分野にチャレンジしたいと受講を決めたのだ。

当日は全国から社会人らが集まり、3日間の演習の最終日に20分のイベントを発表した。私の班は素粒子やデザイン、原子力と分野もさまざまで初対面の人ばかり。短い時間で何かを作り出せるか不安だったが、「演劇」で科学技術を伝えることになった。私はアナウンサーをしていたが表現することが苦手だ。しかし、自分の新たな可能性を広げていきたいと思った。

期間中は遅くまで話し合った。テーマは「監視カメラの是非」。本番直前までリハーサルをし、「これで伝わるのか」「直前で変えると混乱する」など議論を重ね、最後まで妥協せずに取り組んだ。「科学技術コミュニケーションを分かりやすく伝える」という目的を持ったメンバーなので、意見の対立があっても何が一番効果的かすぐに判断する。大人が本気になると、こんなにも熱くなれるのだとワクワクした。

発表ではベストを尽くすことができ、「ブラボー！」という声もあがり達成感を得た。最近では個人の仕事が多く、チームで一つのことをやり遂げたのは久しぶりだった。学生時代のひた向きの気持ちを思い出した。大人になった今だからこそ、本気になって取り組めば新たな可能性を切り開けると実感した貴重な機会だった。